

Open for Whom?

オープンアクセスの サクセスストーリー



Reader

読者にとってのメリット

ニューヨーク州知事室が労働政策の見直し作業を実施する際に、機関リポジトリに登録されている包括的労働協約に関する文書が参考にされた。



Cornell University
ILR School

1967年～1973年の間にロンドンで出版された「オズ」誌が機関リポジトリに登録され、Guardian誌、Open Culture誌、Dangerous Minds誌等で取り上げられたことで、世界中から利用されるようになった。



UNIVERSITY
OF WOLLONGONG
AUSTRALIA

NASA/アメリカ空軍と契約をしていた地方企業が、機関リポジトリに登録されていた材料物理学に関する研究を見つけ、研究リーダーの研究者とのコラボレーションが実現した。



Utah State
University



Author

研究者にとってのメリット

機関リポジトリに登録していた中国の世論調査に関する研究がGoogle検索で上位に表示され、中国のラジオ局から専門家として出演を打診された。

BUTLER
UNIVERSITY

機関リポジトリに登録されている論文へのリンクが、New York Timesの記事に掲載された。それ以降、同論文は1,300回もダウンロードされている。



JOHN MARSHALL
LAW SCHOOL

Alfred Benney教授のAmerican Scholars of Religionプロジェクトは、800以上のインタビュー映像が含まれているがゆえに出版には向かなかったが、機関リポジトリにより研究成果を広く公開することができた。



Fairfield
UNIVERSITY



Institution

組織にとってのメリット

これまで知られていなかったウォルト・ホイットマンによる雑誌の連載とその発見のニュースを機関リポジトリに登録・発信したことで、New York Timesへの記事掲載など、世界規模で大学のPRができた。

THE UNIVERSITY
OF IOWA

機関リポジトリに登録されているコミュニティ・エンゲージメント・コレクションのインパクトが評価され、米国のカーネギー教育振興財団によるカーネギー分類のコミュニティ・エンゲージメント分類で認証を取得した。

UMASS
AMHERST

オープンアクセスにすることで、様々な予想しなかった効果や成果が得られていることがわかんと思います。
ぜひこの機会にご自身の研究成果をオープンにすることもご検討ください！